

2022・9・10（土） 岡山平安文学研究科会 於国際美術研究所

ノートルダム清心女子大学大学院 日本語日本文学専攻 博士前期課程 難波礼子

『源氏物語』の仏教と表現

—— 作中人物が扱う仏具に注目して ——

目次

序章

第一章 「数珠」の表現

第一節 はじめに

第二節 数珠とは

第三節 『源氏物語』の数珠の使われ方

第四節 他作品における数珠の表現方法

第五節 おわりに

第二章 「持仏」の表現

第一節 はじめに

第二節 北山の尼君の持仏

第三節 女三の宮の持仏

第四節 八の宮の持仏

第五節 他作品における持仏の記載

第六節 おわりに

第三章 「曼荼羅」の表現

第一節 はじめに

第二節 曼荼羅とは

第三節 女三の宮の人物像

第四節 紫の上の人物像

第五節 他作品における曼荼羅の記載

第六節 おわりに

終章 （ 仏具の表現における享受問題を含む ）

※本文引用の『源氏物語』は新編日本古典文学全集（小学館）による。なお、私に囲みや傍線等を付した箇所がある。仏具に**囲み**を、仏具に関係する部分には**傍線**等を付している。

はじめに

本論文は、『源氏物語』における「仏具」の記述が、物語の人物造型にどのように関わっているのかを明らかにするものである。『源氏物語』に、作中人物の仏教信仰の様を描いた場面や仏事の儀式など、仏教にまつわる場面<sup>1</sup>は多くある。それらの場面を、特定の経典と結びつけて論じたり、物語の展開や人物造型と仏教との関連を指摘したりする、先行研究<sup>2</sup>が多いことも周知のとおりである。しかし、物語の人物造型を、人と仏道を結ぶ「仏具」から考察している研究は少ない。しかも、その意義についての検証も十分に進んでいないと言いがたい現状である。

そこで、本論文では、『源氏物語』を仏教の仏具の視点から考察する。

【資料1】『源氏物語』で用いられる「仏具」(三十五例) ※用例の多い・巻順に並べている。

- 1 若紫 (源1・二一五) 〈数珠①〉北山の者、読誦の声と数珠が脇息あたる音
- 2 若紫 (源1・二二二) 〈金剛子数珠②〉源氏に、聖徳太子の数珠を献上する
- 3 須磨 (源2・二〇二) 〈黒き御数珠③〉源氏、釈迦牟尼仏弟子と名のり経を読む
- 4 明石 (源2・二七二) 〈数珠④〉明石の入道、数珠の行くえがわからない程
- 5 蓬生 (源2・三三二) 〈数珠⑤〉末摘花、数珠を持たない姫君
- 6 薄雲 (源2・四五八) 〈数珠⑥〉精進中の源氏、齋宮を訪れる
- 7 鈴虫 (源4・三八二) 〈御数珠⑦〉女三の宮、数珠を繰るのをとめる
- 8 御法 (源4・五一二) 〈数珠⑧〉夕霧、を繰りながら阿弥陀仏と唱える
- 9 椎本 (源5・二一七) 〈数珠⑨〉中の君、袖口に数珠を隠している
- 10 手習 (源6・三五二) 〈数珠⑩〉浮舟(尼姿)、精進している
- 11 若紫 (源1・二〇五) 〈持仏①〉北山の尼、読経している
- 12 鈴虫 (源4・三七三) 〈持仏②開眼〉女三の宮の法会、法華の曼荼羅①等を準備
- 13 橋姫 (源5・一二〇) 〈持仏③〉の御飾り、八の宮、仏の飾りを入念にし勤行する
- 14 椎本 (源5・一九二) 〈仏像〉亡八の宮の持仏③

<sup>1</sup> 難波礼子「(学士論文)『源氏物語』における「曼荼羅」の研究」(ノートルダム清心女子大学・二〇一九年)

『源氏物語』の仏教に関する用例から(計二二〇例)

<sup>2</sup> 丸山キヨ子『源氏物語の仏教』(創文社・一九八五年)

高木宗鑑『源氏物語と仏教』(桜風社・一九九一年)

三角洋一『源氏物語と天台浄土教』(若草書房・一九九六年)

岡崎義恵『源氏物語の宗教的精神』日本学士院紀要第二十三卷第三号(一九六五年十月)

三橋正「藤原道長と仏教」駒澤短期大学佛敎論集第三号(一九九八年十月)

佐藤勢紀子「『源氏物語』の仏教思想」東北大学第一七二号(二〇〇一年二月)

- 15 幻 (源4・五四〇) 〈極楽の曼荼羅②〉紫の上が発願した曼荼羅
- 16 幻 (源4・五四四) 〈極楽の曼荼羅②〉紫の上の命日の供養
- 17 若紫 (源1・二〇一) 〈閼伽〉仏に供える水のこと、花も供えている
- 18 松風 (源2・四一二) 〈閼伽の具〉仏に供える水、供え物を入れる器
- 19 胡蝶 (源3・一七二) 〈閼伽〉閼伽に女童が花を供える
- 20 鈴虫 (源4・三七三) 〈閼伽の具〉女三の宮の持仏開眼供養
- 21 幻 (源4・五三二) 〈閼伽の花〉閼伽に花を浮かべている
- 22 初音 (源3・一五六) 〈仏具〉空蟬尼の仏具(尼衣・経・仏の飾り・閼伽の具など)
- 23 夕顔 (源1・一九二) 〈仏の飾り〉比叡の法花堂での夕顔の四十九日の法要
- 24 賢木 (源2・一二九) 〈仏の飾り〉十二月、中宮(藤壺)の御八講
- 25 須磨 (源2・二一三) 〈念誦の具〉須磨の地の、源氏の仏の道具
- 26 椎本 (源5・二〇二) 〈御念誦の具〉亡八の宮の御念誦の道具の数々
- 27 宿木 (源5・四五七) 〈行ひの具〉弁の尼君のお勤めの道具
- 28 玉鬘 (源3・一〇五) 〈大御灯明〉玉鬘ら長谷寺参拝ため調達する
- 29 総角 (源5・二三二) 〈御灯明〉薫、大君を求め仏間に、灯明の火
- 30 鈴虫 (源5・二三二) 〈御灯火〉薫と大君のいる仏間の灯明
- 31 鈴虫 (源4・三七三) 〈名香〉女三の宮の持仏開眼供養
- 32 総角 (源5・二二三) 〈名香〉薫と大君のいる仏間の、仏に奉る香
- 33 若菜上 (源4・九三) 〈仏・経箱・帙篋〉最勝王経・金剛般若・寿命経(四十賀)
- 34 夕霧 (源4・四六五) 〈経箱〉御息所(一条)の形見・螺鈿の箱
- 35 若紫 (源1・二二二) 〈独鈷〉聖、源氏に独鈷を献上する

本論文では、これらの仏具のうち、物語で多数用いられている仏具、かつ、作中人物個人が扱う仏具として、物語の**数珠****持仏****曼荼羅**の三種類の仏具に注目する。